

2025年の大学卒業者 進路決定率88.4%！

前年から1.0ポイント増！ 4年連続で上昇！

旺文社 教育情報センター 2025年12月24日

旺文社では毎年『大学の真の実力 情報公開BOOK』を刊行している。その調査データを基にして、2025年の大学卒業者の進路状況を分析した。2025年の進路決定率は88.4%で、2022年から4年連続で上昇した。

◎『大学の真の実力 情報公開BOOK』（旺文社／2025年9月刊）の調査データに基づく。

◎調査データは2024年4月～2025年3月までの大学卒業者の、2025年5月1日現在の情報。

◎学部系統分類は、旺文社の分類に基づく。

◎本稿での進路区分の基準は次の通り。

- ・「進学者」＝大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科へ進学した者。
- ・「就職者」＝自営業主等と無期雇用労働者の合計。

（注）本稿では、有期雇用労働者（雇用契約期間1か月以上の者）・臨時労働者（雇用契約期間1か月未満の者）は就職者に含めていない。文部科学省『学校基本調査』が示す「就職者」、旺文社『大学の真の実力 情報公開BOOK』に掲載の「就職者」とは基準が異なる。

- ・「臨床研修医」＝医学科、歯学科の卒後臨床研修医。
- ・「その他」＝「専修学校・外国の学校等入学者」「進学準備中の者、就職準備中の者、その他」「不詳・死亡の者」。

■「進路決定率」——就職率だけではわからない卒業後の進路状況を数値化！

本稿における進路決定率は、以下の式で計算した。

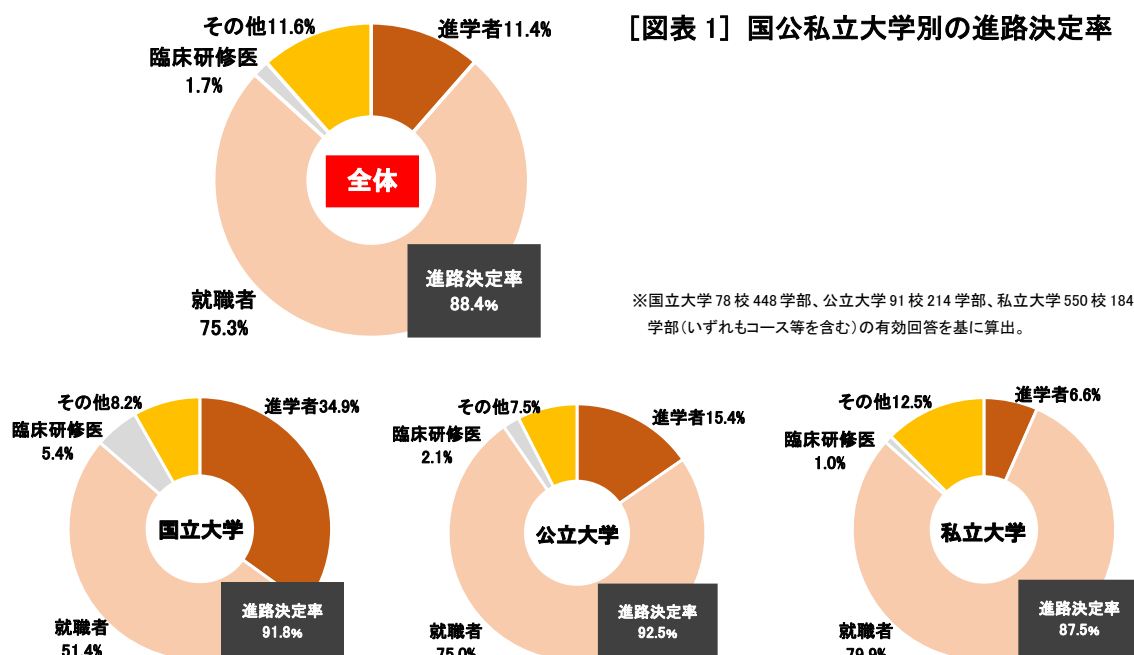
$$\text{進路決定率（\%）} = (\text{進学者数} + \text{就職者数}) \div \text{卒業者数} \times 100$$

※就職者数に臨床研修医を含む

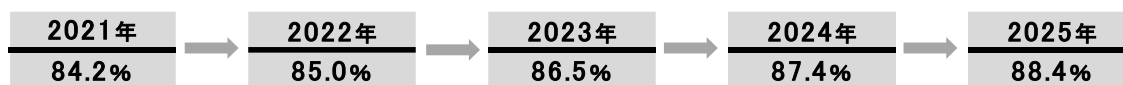
大学生の卒業後の進路状況を表す代表的な数値に就職率がある。ただ、算出するための計算式は、「就職者数÷就職希望者数」や「就職者数÷卒業者数」「就職者数÷（卒業者数－進学者数）」などさまざま。本稿では、大学院などへの進学も卒業後の進路のひとつとして考え、進学者、就職者（臨床研修医含む）を進路決定者とし、卒業者に占める割合を「進路決定率」として算出した。

なお、就職者は自営業主等と無期雇用労働者とし、有期雇用者と臨時労働者は含めていない。分母は希望者数ではなく、客観的な数字として卒業者数とした。

【図表 1】 国公立大学別の進路決定率



【図表2】 進路決定率 直近5年間の推移



■2025年の進路決定率は88.4%。上昇傾向が続く

本年の進路決定率は88.4%。前年から1.0%上昇した。2022年からは4年連続で1%前後の上昇が続いている。

設置者別ではまず、国立大学の卒業生は進学者の割合が高い。34.9%と、およそ3人に1人が進学した。国立大学は公立・私立大学と比較すると、理系（理・工・農）の学生数の割合が非常に高い。これら3系統は進学する者が多く、その結果、国立大学の進路決定率を押し上げる要因となっている。また、国立大学は臨床研修医の割合が高いという特徴もある。

公立大学の進路決定率は、国立大学とはそれほど差はないが例年最も高い。今年も同様の結果となった。公立大学では看護・医療系統の学生が多い。また、理、工、農など理系学生の割合も私立大学に比べて高い。資格を取得して専門職に就く者や、進学者が多くいて、その結果、進路決定率が高くなると考えられる。

私立大学は国公立大学と比較し、就職者の割合が高い。私立大学では文系の学生の割合が国公立大学に比べて高い。その多くが進学ではなく就職することが背景としてあげられる。また、私立大学では、その他の割合が高い。国公立大学に比べて多様な学部・学科があり、学生が多くバラエティに富んでいることの裏返しと言えよう。私立大学の学生は国公立全体の8割近くを占めているので、全体の傾向は私立大学の傾向と似たようになる。

■進学者の率と就職者の率が微増

図表3は2024年と2025年を比較したものである。進学者の率が0.3ポイント、就職者の率が0.7ポイント上昇した。臨床研修医は例年と同水準だ。進学者、就職者の割合が増えた結果、その他が低下し、それに伴い進路決定率が上がったという構図だ。

〔図表 3〕 進路決定率 前年との比較

全体	2024年	2025年
進路決定率	87.4%	88.4%
進学者	11.1%	11.4%
就職者	74.6%	75.3%
臨床研修医	1.7%	1.7%
その他	12.6%	11.6%

■私立大学も全体的に進路決定率が上昇

図表4は国公立大学別の進路決定率ゾーン別の学部数である。国公立大学は集計した学部の9割超が進路決定率80%以上に分布している。進路状況が安定しているといえる。私立大学も8割超の学部が進路決定率80%を超えているが、国公立大学と比べて分布は広い。とはいえ、2021年には3割を超えていた進路決定率80%未満の学部数の割合は年々下がり、2025年は2割を切った。

■進路決定率の差は男女間でほぼ見られず

性別に着目すると、男女間で進路決定率の差はほとんど見られない。ただ、進路の内訳を見ると、多少違いが見られる。男子は進学者と臨床研修医の割合が高い。一方、女子は就職者の割合が高い。

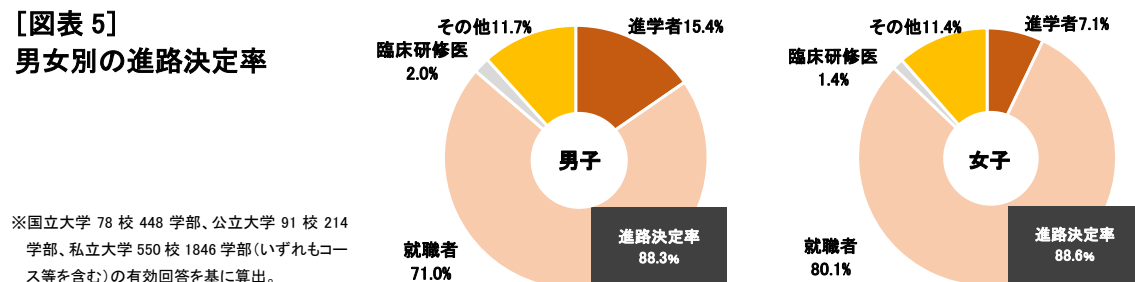
次ページの図表6は、設置者別に文系、理系の進路決定率を表したものである。国立大学は進学者の割合の高さが目立つ。とりわけ理系のそれは顕著だ。私立大学は文系、理系ともに就職者の割合が高く、公立大学はその中間のような結果になった。6つのグラフそれぞれの進路決定率は、すべてで前年より上昇した。

〔図表 4〕 国公立大学別
進路決定率ゾーン別の学部数

進路決定率	国立大学 91.8%	公立大学 92.5%	私立大学 87.5%
90～100%	299	166	804
80～90%未満	116	36	725
70～80%未満	26	6	204
60～70%未満	5	5	76
50～60%未満	2	1	27
50%未満	0	0	10

※国立大学 78 校 448 学部、公立大学 91 校 214 学部、私立大学 550 校 1846 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

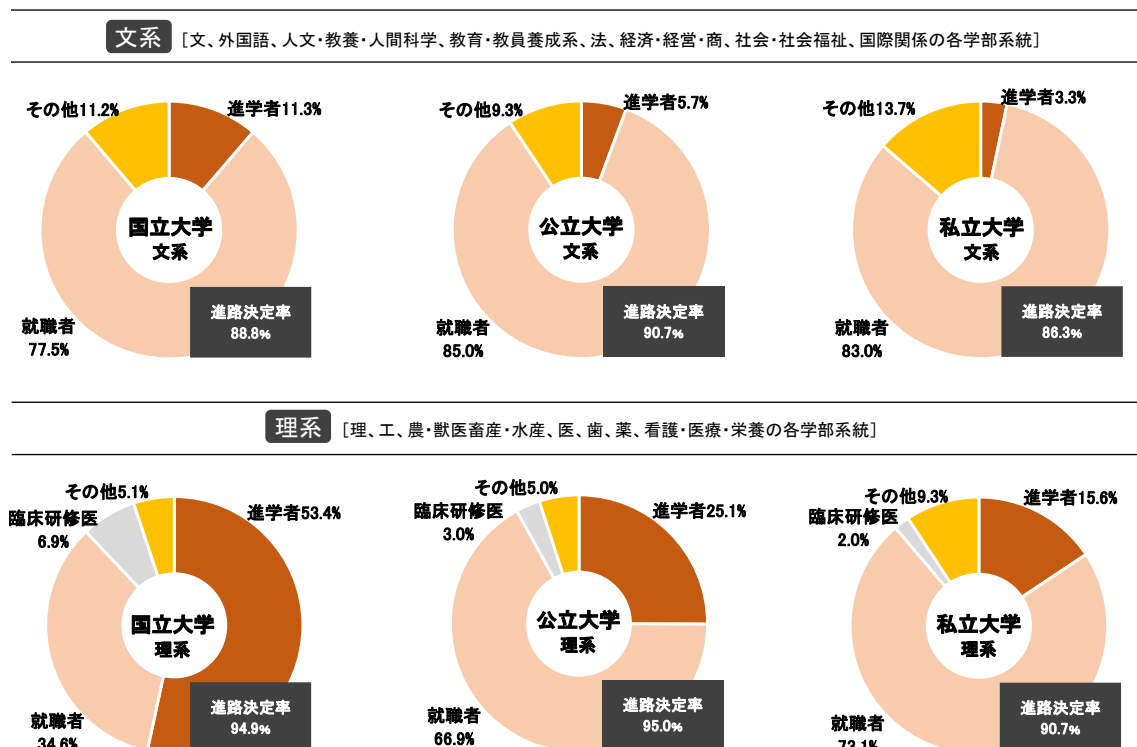
〔図表 5〕
男女別の進路決定率



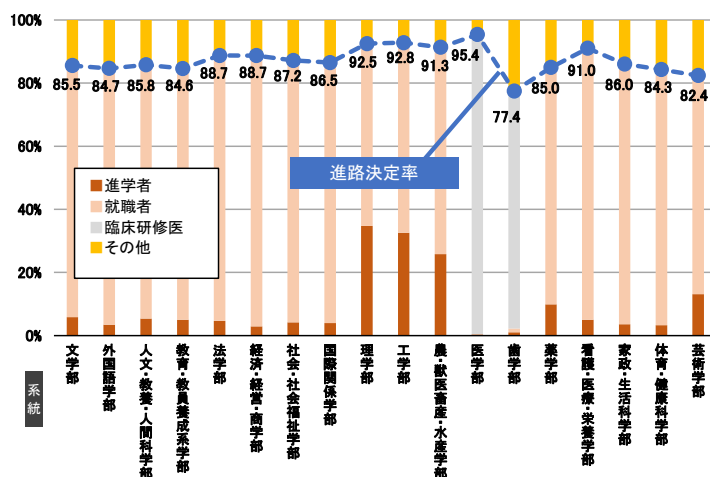
※国立大学 78 校 448 学部、公立大学 91 校 214 学部、私立大学 550 校 1846 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

〔図表 6〕 国公立大学別
文系・理系別の進路決定率

※国立大学 78 校 448 学部、公立大学 91 校 214 学部、私立大学 550 校 1846 学部（いずれもコース等を含む）の有効回答を基に算出。



〔図表 7〕
学部系統別の進路決定率



※国立大学 78 校 448 学部、公立大学 91 校 214 学部、私立大学 550 校 1846 学部（いずれもコース等を含む）の有効回答を基に算出。

■理、工、農・獣医畜産・水産、医、看護・医療・栄養の進路決定率が 90% 超え

進路決定率が全体（88.4%）を上回った学部系統を率が高い順に並べると、医学部、工学部、理学部、農・獣医畜産・水産学部、看護・医療・栄養学部、法学部、経済・経営・商学部となった。医、工、理、農などの進路決定率は例年高い。医師国家試験の高い合格率や、工、理、農の進学者の多さが背景にある。

前年と比較すると、図表8のように、多くの学部系統で進路決定率が上昇した。前年から下がった学部系統も3系統あるが、いずれも大幅な低下ではない。どの学部系統でも進路決定率が高かったことを示している。

■規模が大きい大学の進路決定率が高い傾向が見られるが、実際はさまざま

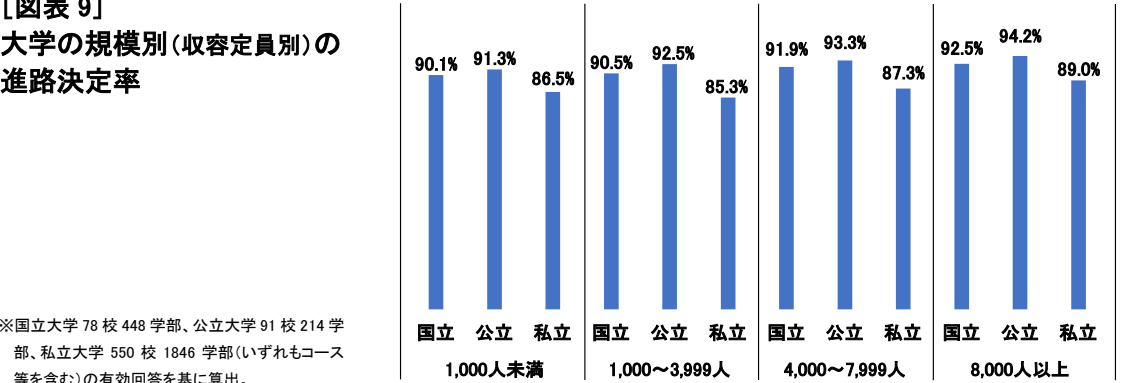
図表9は大学の規模別に進路決定率を集計したものである。規模が大きい方が進路決定率が高い傾向が見られる。ただし、個々の大学を見てみると、規模が大きな有名大学でも進路決定率が80%に満たないところや、逆に、規模が小さくても進路決定率が100%のところもある。状況はさまざまだ。

【図表 8】
学部系統別の進路決定率 前年との比較

学部系統	2024年	2025年	前年からの増減
文学部	84.1%	85.5%	1.4ポイント
外国語学部	83.1%	84.7%	1.6ポイント
人文・教養・人間科学部	84.9%	85.8%	0.9ポイント
教育・教員養成系学部	83.1%	84.6%	1.5ポイント
法学部	87.8%	88.7%	0.9ポイント
経済・経営・商学部	87.9%	88.7%	0.8ポイント
社会・社会福祉学部	86.1%	87.2%	1.1ポイント
国際関係学部	85.5%	86.5%	1.0ポイント
理学部	91.6%	92.5%	0.9ポイント
工学部	92.3%	92.8%	0.5ポイント
農・獣医畜産・水産学部	91.4%	91.3%	-0.1ポイント
医学部	95.7%	95.4%	-0.3ポイント
歯学部	76.6%	77.4%	0.8ポイント
薬学部	85.1%	85.0%	-0.1ポイント
看護・医療・栄養学部	89.4%	91.0%	1.6ポイント
家政・生活科学部	85.2%	86.0%	0.8ポイント
体育・健康科学部	83.2%	84.3%	1.1ポイント
芸術学部	81.5%	82.4%	0.9ポイント

※太字は全体の進路決定率88.4%を上回った系統。

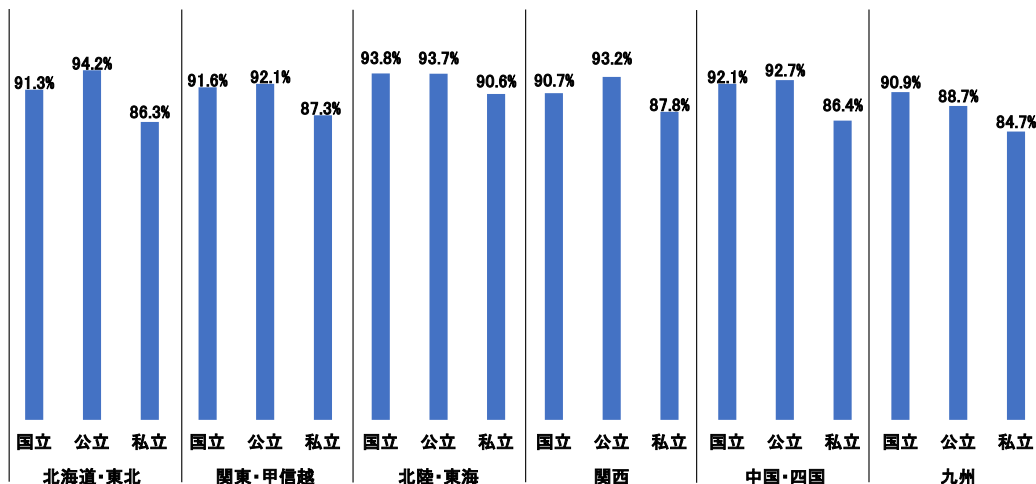
【図表 9】
大学の規模別(収容定員別)の
進路決定率



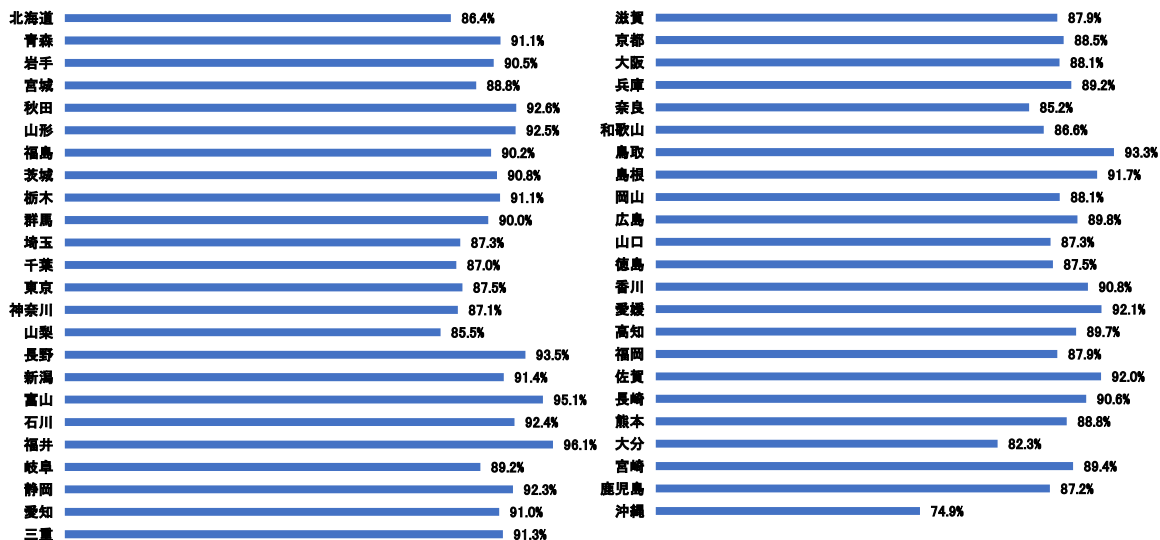
■北陸・東海の進路決定率の高さは変わらず

図表10と11は、進路決定率をエリア別と都道府県別に表したグラフである。本年も北陸・東海の進路決定率が高い。都道府県別に見ると、福井県が96.1%で最高だった。以下、富山県、長野県、鳥取県と続く。エリアによって地域産業の状況や設置されている大学数、大学の特徴、国公立別別の状況などが異なることに注意する必要がある。

[図表 10] エリア別の進路決定率



[図表 11] 都道府県別の進路決定率

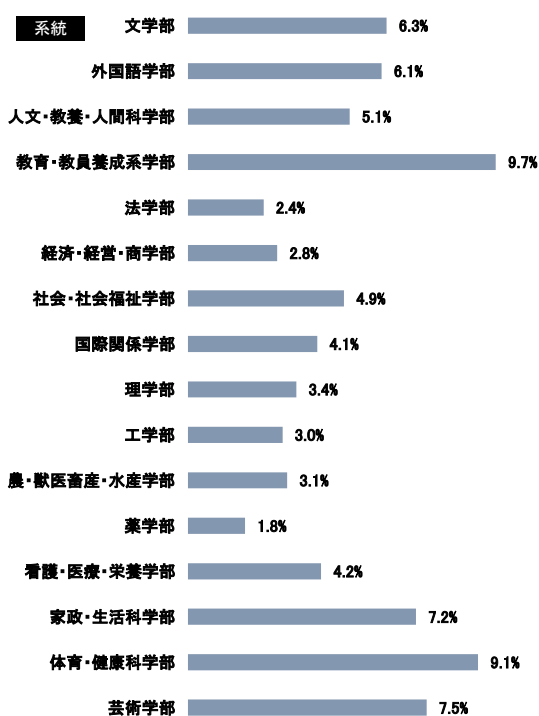
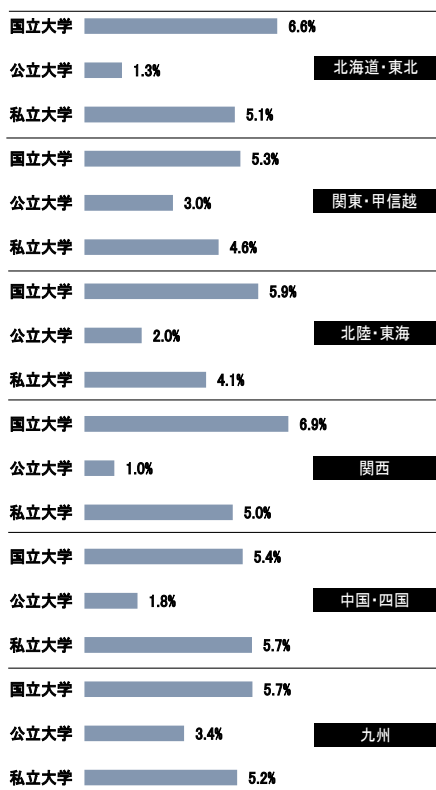
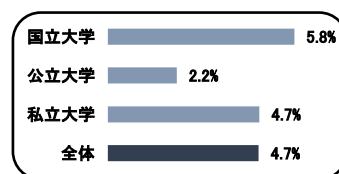


※図表 10、11ともに国立大学 78 校 448 学部、公立大学 91 校 214 学部、私立大学 550 校 1846 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。大学の本部所在地で集計。

[図表 12]

有期雇用労働、臨時労働に就いた者の割合 (国公立大学別／エリア別／学部系統別)

※(有期雇用＋臨時労働)÷
(自営業＋無期雇用＋有期雇用＋臨時労働)で算出。



※国立大学 78 校 448 学部、公立大学 91 校 214 学部、私立大学 550 校 1846 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。エリア別は大学の本部所在地で集計。

■有期雇用労働・臨時労働に就いた者は 4.7%。前年比で 0.6 ポイント低下

図表12は、職を得た者のうち、有期雇用労働・臨時労働に就いた者の割合である。全体の数値は2021年6.2%、2022年5.9%、2023年5.6%、2024年5.3%、そして本年は4.7%と低下の傾向である。学部系統別では、例年通りのことだが、教育・教員養成系学部で割合が高い。これは、教員の「臨時的任用」などが背景にあると考えられる。一方、割合が最も低いのは薬学部で、これも例年通りだ。

設置者別や男女別、学部系統別などの分類別に進路決定率を検証した。前年と比較し傾向の顕著な変化は見られず、多くの分類で、進学や就職の割合が底上げされる形で進路決定率が1ポイント程度上昇した。

(2025. 12 今村)